

<参考> 「個別の指導計画」の活用～「個別の指導計画」に基づいた授業～

「個別の指導計画」に基づいて、日々の授業を展開するに当たっては、「個別の指導計画」に記載した目標や手だてが、学習指導案の単元（題材）設定の理由、一人ひとりの単元目標や本時の主眼、指導上の留意点等に具体化される必要があります。

また、授業を実践していく中で、「個別の指導計画」の目標とつながらない場合、単元の指導内容や目標の見直しを検討する必要があります。目標は妥当であったか、指導内容や支援の手だては適切であったかなどについても分析し、必要な修正を行います。

このような取組により、「個別の指導計画」が一層充実していきます。

<個別の指導計画と指導のつながりの例>

児童の実態

- ・学習中に離席することが多く、教員の注意も聞き入れにくい。
- ・文房具を触っていることが多く、教員の説明を聞いていない様子が見られる。
- ・興味のあることを一方的に話し、授業の内容に無関係の質問をしてしまう。
- ・絵や写真などを、興味をもってよく見ている。



児童の課題

- ・言葉だけでは課題や内容を理解することが難しい。
- ・教員の話に注意を向けることが難しい。



「国語」の年間指導目標（長期の目標）

- ・教員の話に注意を向け、課題を理解して、自分から活動に取り組むことができる。



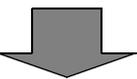
「国語」の学期の目標（短期の目標）

- ・絵や写真などを手がかりに自分のすることを理解することができる。
- ・絵や写真、順番表を手がかりに一人で活動に取り組むことができる。



「国語」の指導・支援の方法の設定

領域	指導・支援の方法
話すこと	・「いつ」「だれが」「何を」「どのように」「どうした」等の文字カードやワークシートを提示して、話す内容を整理したり、順序立てて話したりできるようにする。
聞くこと	・教員の質問や友達の発表を聞く場面では、キーワードや絵、写真等を提示し、大事なことを聞き取りやすいようにする。
書くこと	・本児と話しながら、印象に残ったことや想像したことを教員が描いた絵を見て、文字化していけるようにする。
読むこと	・文章の内容を絵や動作で示したり、キーワードを提示したりして、文章の内容を理解できるようにする。



「国語」の授業（単元名：校内探検）における指導・支援

次	活動内容	具体的な手立て
1	部屋を調査する。	・調べる部屋の写真や文字カードを持たせ、調査する部屋を意識させる。 ・調査した部屋を思い出しやすいように、デジタルカメラで撮影させる。
2	発表の準備をする。 (支援員による支援)	・撮った写真を使って、何が置いてあるか、何をやる場所かを考えさせる。 ・写真をみて、ワークシートに文字を書き込ませる。
3	発表する。 発表を聞く。	・教員の質問(「どこ」「なに」)を事前に黒板に掲示しておく。 ・教員は友達の発表内容に合わせて文字カードを黒板に貼り(「としよしつ」「ほん」等)、大切なことを聞き取ることができるようにする。

「個別の指導計画」に記載

週案・学習指導案等に記載